

世界農業遺産象徴品目「雑穀」の生産振興

ねらい

「にし阿波の傾斜地農耕システム」が世界農業遺産に認定されたことを契機に、象徴的な品目である「そば・ごうしゅいも」を「戦略品目」と位置づけ、生産振興に取り組んできた。令和2年度からは、「雑穀（アワ、コキビ、タカキビ等）を新たな「戦略品目」とし、増産に向けた取り組みや商品開発を行い、生産者の意欲の向上と新規生産者の確保につなげる。

活動地域・対象

地域：美馬市、つるぎ町
対象：雑穀生産者及び生産団体、アグリサポート美馬、JA美馬

普及活動の目標

「雑穀」の産地強化

目標に向けた活動概要

- 1 雑穀種子の確保及び増産に向けた取り組み
にし阿波の雑穀は、生産者の高齢化や作業の大部分が人力で作業効率が悪く、ブランド化が確立されておらず価格も安いことから、生産量の減少、増産に必要な雑穀種子の不足等が課題となっていた。このことから、雑穀の生産振興にかかる取り組みを実施した。
 - ①雑穀の調整作業の省力化に向けた検討（令和2年度）
 - ②雑穀種子の増産及び系統の比較検討（令和2年度）
 - ③鳥獣被害防止対策の支援（令和3年度）
 - ④機械化栽培体系の現地実証（令和3年度）
 - ⑤雑穀精白マニュアルの作成（令和4年度）
- 2 世界農業遺産のストーリー性を活かした消費拡大への取り組み
雑穀の高付加価値化による需要の拡大、販路開拓を図るため、新たな商品開発と食べ方の提案を行った。
 - ①雑穀を利用した新商品の開発（令和2年度）
 - ②雑穀料理レシピの開発と情報発信（令和2～4年度）
- 3 雑穀栽培の認知度向上に向けた取り組み
【雑穀サミットの開催】
 - ①「雑穀振興大会」の開催による意識の醸成（令和2年度）
 - ②雑穀の認知度向上のためのSNS等によるPR活動（令和3年度）
 - ③「雑穀サミット」の開催（令和4年度）



【系統比較及び種子増産ほ場】



【機械化体系の実証】



【雑穀の消費拡大】

普及活動の成果

1 雑穀種子の確保及び増産に向けた取り組み

- ①「もみすり作業」の省力化に向けた「小型脱皮機」の実演会を開催したところ、生産団体に導入され、調整作業の省力化が図られた。
- ②栽培展示ほを設置し種子増産に取り組むとともに、にし阿波在来系統、県外系統の比較検討を行った。にし阿波の在来系統の生育特性が把握でき、つるぎ町半田系統のタカキビが稈長が比較的短く作業性に優れることから、機械収穫の可能性が示唆された。
- ③簡易設置防鳥ネット「らくらく設置」の実証により効果が確認でき、ネットの目合いは2cmが最適であった。また、設置の実演会を開催したことにより、活用が生産者全体に広がった。
- ④タカキビの短稈系統を用い、播種から収穫までの機械化体系の現地実証を行った。トラクターによる耕うんと同時播種、汎用コンバインによる収穫を行ったところ、脱粒による収穫ロスがあったものの手作業に比べ大幅な時間短縮が図れた。
- ⑤個々の生産者の雑穀精白方法の調査を行い、精白マニュアルを作成した。また、JAに新たに導入された雑穀調整機械による精白方法を検討した。今後、商品の品質の均一化が期待され、新規生産者の育成にも活用できる。

2 世界農業遺産のストーリー性を活かした消費拡大への取り組み

- ①雑穀クリエイターの横関氏の協力のもと、生産者との意見交換を踏まえ、にし阿波の傾斜地がイメージできる商品「にし阿波の6穀ブレンド」を開発した。雑穀の調理方法が分からない消費者が多いなか、手軽に雑穀ご飯が作れる商品であり、雑穀の消費拡大に繋がった。
- ②雑穀の料理レシピ開発とリーフレットを作成し、県内外のイベントやインターネット販売等で活用している。調理動画も作成し、youtubeやSNS等で情報発信し、消費拡大に繋がった。

3 雑穀栽培の認知度向上に向けた取り組み

「雑穀振興大会」や「雑穀サミット」の開催、youtubeやSNS等による傾斜地における雑穀栽培、そば米生産動画の配信等により雑穀栽培の認知度向上が図れた。

以上の取り組みにより、令和3年度には雑穀生産の後継ぎとなる新規就農者が育成されるなど、雑穀生産者、栽培面積ともに徐々に増えており、産地に活気が出てきている。

用語
説明

雑穀クリエイター：日本で8名しかいない日本雑穀協会認定の雑穀のスペシャリスト
(2022年7月31日現在)

今後の発展方向

- これまでの検討結果を踏まえ、優良系統の種子確保と栽培の機械化、省力化の実証等による増産を「にし阿波」全域で進めるとともに、新規生産者を増やすため、新規生産者が取り組みやすい生産体制の整備と関係機関によるフォローアップ体制の構築を図る。
- 2023年は国際雑穀年。世界農業遺産のストーリー性を最大限に活かし、「雑穀」の新商品の開発や販路開拓による産地強化を図る。

関係者からの声

- 雑穀の需要が増えており、生産組合員数、栽培面積も徐々に増えている。また、「雑穀サミット」がにし阿波で開催されて励みになった。
- JA美馬に導入された雑穀調整機械による作業の省力化と商品の均一化に期待している。

美馬農業支援センター

連絡先：徳島県美馬市脇町大字猪尻字建神社下南73 tel：0883-53-2309